

西尾市・幡豆郡3町合併 住民説明会質疑応答要旨

平成21年9月1日から9月13日までの間に行われた、住民説明会（19会場・参加者数2913人・意見数218）の質疑応答の要旨をまとめたものです。



西尾幡豆合併推進プロジェクトチーム

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月3日（木） 19:00～20:40
会場	西尾市立寺津小学校 体育館
来場者数	180人
質疑応答の要旨	
Q	西尾市史などによると西尾は吉良荘の一部となっていた。新市の名称についてどう思われるか。西尾吉良とか。
A	他市の合併においても新市の名称については期間を要し、合併が進まない要因となっている。住民の方々のいろんな思いはあると思うが、4首長で合意された西尾市として協議した。
Q	すべて合併ありきで話が進んでいる。住民の意見をもっと聞くべきでないか。西尾が幡豆3町のような小さなところとなぜ合併するのか。碧南市との合併のほうが理想である。皆さんの声を聞くべきである。以前寺津が西尾と合併したときは、この地区としては良くなかったと聞いている。
A	合併は目先のことを考えてするものではない。以前には各町が合併し西尾市となっている。合併がなかったら今の西尾市はないと思う。今こそ、我々は後世のため、がんばる姿勢を示すべき。
Q	西尾市において港は寺津だけであるが、合併すると広い区域が海に面する。堤防は老朽化しており多大な事業費が必要でないか。市民サービスは低下しないか。また、合併に際し住民投票を提案したいと思う。
A	堤防は県の管理であり、改修も県で施工されます。住民投票については期間と経費を必要とします。大半の方は合併が良いか、悪いかわからないと思う。行政主体で進めるのがよいと考えます。
Q	合併したら通学区域はかわるのか。寺津地域は小中一貫教育を実施しており、他の地域がはいると学校の指導方法に違いが生じ、支障となるが。
A	通学区域については今でも問題があり、これを契機に検討していきたい。
Q	合併は基本的には賛成である。西尾市がリーダーシップをとらないと3町はついてこない。西尾市のしっかりとしたリーダーシップのもと新市が実力を発揮して進めてほしい。
Q	合併は大賛成であり、広い目で将来を見て進めてほしい。合併時期については平成23年3月では急ぎすぎである。合併に対する費用も大きく短期では難しい。もう一年延ばしたほうが良い。

A：この地域の合併は遅すぎたと考えている。物事は目標を持ち、実現に向かって頑張っていきたい。決めた以上は早く進めたほうが良いと考える。

Q：スケールメリットといわれるが、努力したものでなく当然の減でないか。今は百年に一度の不況といわれる。河村市長のように、もっとドラスティックな改革を示すべきと思う。

A：いろんな考えがあると思う。ご理解願いたい

Q：編入方式なら西尾市はほとんど変わらないと思う。合併を進めていってほしい。消防団がないのは全国で西尾市だけであるが、消防団については経費もかかり、住民の負担も大きい。消防団は作ってほしくない。

Q：1市3町は運命共同体と考える。消防団については既にできていると考えている。

Q：合併については賛成である。以前から合併の話は何度も出ている。4首町の合意ができた良い時期であり合併を進めてほしい。合併には議員の理解が必要であり、十分な話し合いが必要と思う。

Q：合併については現在のところあまり関心がないと思う。十分な説明をしてほしい。

Q：合併は賛成であるが急ぎすぎでないか。もっと住民の気持ちを聞いてほしい。5%の住民意向調査でよいのか。西尾市が3町の20億を負担しなければならない。この不況の時期の合併でなく、もう少し延ばして進めてほしい。

A：5%の調査で、全体の意向は把握できると思う。また、合併算定替えについて、は今後も激変緩和措置はあると考える。合併の時期については、早すぎることはない。むしろ遅すぎるくらいと考えている。

Q：市職員組合のアンケートでは賛成17%、反対49.8%、分からない33%である。市職員、議員及び住民も急ぎすぎと考えている。市長のマニフェストでもすぐやるとは書いてない。急がなくても良いのではないか。住民、議員、職員も納得をした合併を進めてほしい。以前の合併ではこの地区は惨めな思いをした。中心部だけが整備され、この地区は置いていかれた。

A：変化を好まない層もあるとおもうが、また、それがすべてではない。後世のために是非進めていきたい。ご理解願いたい。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月5日（土） 10:00～11:30
会場	西尾市役所 51会議室
来場者数	180人
質疑応答の要旨	
Q:	今回の説明会も有権者数に対して、参加者は1%程度であるのが現状である。市は、合併を進めるといふ既成事実として報道している。市民は白けているのではないかと思う。前市長で行政に対して信頼は地に落ちた。今回の合併の件でさらに市は白けを上乘せしたこととなっていると思うが、どうか。
A:	参加者について、本日少ないとの指摘ですが、30人集めていただければどこでも説明にいかしていただく。また市を白けさせたとのことであるが、私はそのようには思っていない。合併を進めてほしいという意見も伺っており、また、各種団体からも合併を進めてほしいと要望が出ており進めていきたい。
Q:	市の名前は西尾市になると説明があったが新名称になる可能性はあるのか。また、合併により学校区はどうなるのか。西尾市の知名度は低いと思う。合併により知名度を上げる努力をしてほしい。また、高速道路の乗り入れ計画はできないか。
A:	市の名稱については地域の方それぞれの思いがあるが、西尾市を基本として検討していく方針である。西尾が全国から知っていただけるような街づくりを進めていきたい。幹線道路の整備については国・県に働きかけをしていく。通学区域については、今後変更の方向で進めていきたい。
Q:	なぜ合併かが見えてこない。市町村合併は傷を残したとの意見もあり、政府の方針も変わってきている。民主党のマニフェストには合併は削られている。合併よりも小さな村が元気になることが大切でないか。合併して老後がどうなるか、子供たちはどうなるかが見えてこない。合併を進めるなら住民投票で民意を聞いてから進めてほしい。
A:	すべてがバラ色とは考えていない。今より良くしていきたいということが大前提である。今後高齢社会に到達し、介護・福祉が必要となる。合併を進め経費をうかし、介護・福祉の充実を図りたい。イエスかノーかの住民投票ではなく、住民意向調査で進めたい。
Q:	合併すると100億程度の補助が出ると聞いているが、説明資料には載っていないが。
A:	合併により5年間普通交付税が交付される（年間20億、5年で約100億）

と算定していたが、合併特例法は平成 22 年 3 月までの特例であり、4 月以降はどうか決定されていないため資料には載せていない。

Q : 幡豆 3 町においては救急車、消防車の台数、地震時の津波による避難場所など諸問題を抱えている。合併は早い時期に進めたほうが良いと思う。

また合併以前に救急車、消防車の活用など西尾市との協定が必要でないか。

A : 安心・安全の確保が第一と考える。合併により安心・安全がより一層図れるよう進めたい。

Q : 合併に難しい町があれば 1 市 3 町でなくとも 1 市 2 町でも進めてほしい。

A : 吉良町の話が出たが、吉良町長は先頭に立って、合併を進めていてくださる。必ず 1 市 3 町で一緒に進めていきたい。

Q : 県下で合併したところに出向いて市側の意見、住民側の意見を聞いている。各市の意見を聞いて参考にしていってほしい。各町内会単位での説明会を開催すべきでないか。

A : 一部の市ではあるが意見を聞いている。各町内会への説明会は市職員も多忙であり難しい。各地域には市議会議員さんがみえるので住民の意見を把握していただくとありがたい。以前の合併では市議会議員さんが先頭に立ち進められた。

Q : 市長は無投票で就任され、市民の真意を受けたものではない。住民投票をするべきでないか。住民意向調査の結果は公表されるのか。最終的には議会の議決と聞いたが、現在市議会議員で誰が賛成で、誰が反対か。

A : 皆様のご理解のもと無投票としていただいたと思っている。住民投票ではなく住民意向調査で進めたい。5%の住民の意向で民意は理解できると考えている。

A : プロジェクトチームからお答えします。住民意向調査は 19 会場での説明会実施後に無作為で 18 歳以上の 5%に当たる約 7 千人を対象に実施します。アンケートは、単なる合併賛成、反対でなく、合併に期待されること、反対の方の理由を聞かせていただくなど、きめ細やかなものとしています。

Q : 合併は西尾市だけが得をするのでなく、3 町の住民の方も良くなるよう進めてほしい。

A : 合併が実現できれば地域全体が良くなる、夢のある市としていきたい。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月5日（土） 19:00～20:10
会場	西尾市立西野町小学校
来場者数	170人
質疑応答の要旨	
Q：市長とは何であると心得えておられるか。	A：市のトップリーダーであると考えます。
Q：市長は、市民の長ではない。市役所の長である。榊原市長は無投票で市長に就任された。合併を市民に押し付けている。合併のイメージがわいてこないが、なぜ今合併なのか。なぜそんなに急ぐのか、じっくり時間をかけて進めた方が良いのではないか。	A：今後、財政緊迫の時代を迎えることになる。究極の行財政改革である合併を進めていきたい。合併を急いでいるとは思っていない。期限を切ってその目標に向かって進めることが大切と考える。
Q：市長は今まで合併についての行動は見えなかったと感じるが、急に合併を唱えられたがなぜか。具体的なビジョンを示した後の合併としてほしい。	A：県議の時代から合併について唱えてきた。ビジョンについては有識者、県担当者を含めた会議を開催し、グランドデザインを作成していく。
Q：幡豆3町との事務事業のすりあわせが大変と思うが合併に向かって頑張ってもらいたい。合併が進んだ後は、安城一色線、西尾幡豆線の早期完成、名鉄西尾・蒲郡線の存続につとめてほしい。	A：幹線道路の整備については県に要望している。県からも合併した市においては優先的に配慮していただけると聞いている。
Q：現在商工会議所は2,000社余り加盟しているが、中小企業は大変厳しい状態である。次世代に借財を残す行政はやめてほしい。無駄、無理をなくすようつとめ、合併を進めてほしい。	A：若者たちの世代を考え、若者たちに夢をもってもらえるよう頑張っていきたい。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月6日（日） 19:00～20:30
会場	西尾市立福地南部小学校 体育館
来場者数	110人
質 疑 応 答 の 要 旨	
Q	基本的には賛成であるが、新市の財政計画における地方税320億円の根拠を説明されたい。また人件費について職員数で250人、15億円の削減の根拠を説明されたい。
A	企業誘致や産業振興により税の増収を図ってまいります。職員の削減は、合併後の同規模自治体として安城市の職員数と比較して、目標を立てている。
Q	職員の給料を引き下げるとのことなら、納得できるが、その点はいかがですか。
A	先進例では、合併前・後の給料に大きな変化がないようにしているところがある。3町の給料表を西尾市の給料表のどこに合わせるか、基本的には現在と同等の給料と考えられるが、今後調整していく。
Q	西尾市にとって、合併のメリットはないのではないか。
A	メリットはたくさんある。合併すれば、海、川、山があり、漁業、観光やその他の産業振興も大きな可能性を持つ。今後、多くの意見を聞きながら、夢のあるグランドデザインを策定していく。すばらしいアイデアをお願いしたい。幡豆のこどもの国などもたくさんの人々が来てくれるようにしたい。
Q	基本的には賛成。ディーゼル車の排気ガス規制は、合併後、どうなるのか。
A	県の大気環境課に問合せしたところ、西尾市は、NOxPM法の規制区域であるが、幡豆3町は規制区域外である。合併後も、旧幡豆郡3町は従来とおり規制はかからない。
Q	一色町、幡豆町は財政厳しい。起債も大きい。合併した後の返済計画はどうなっているか。また、住民投票を実施してほしい。
A	住民投票は合併に賛成か反対かのみ。住民意向調査を予定している。合併に何を期待するか。あるいは合併に反対の理由などを聞かせていただきたい。
A	3町の起債であるが、目先の損得ではなく、将来を考えて合併を考えていただきたい。3町と西尾市は一心同体である。3町が衰えれば、西尾市にも大

きな影響が出る。不況のときだからこそ、今、手を打たなければならない。

Q：基本的には賛成である。指標、数値、グラフ等で示して欲しい。指標なければ評価もできない。企業は失敗すれば社長はクビ、給料は下がる。行政の場合は、どう責任取るのか。

A：合併協議会を立ち上げた後、新市の基本計画を作成する。この中では10年間の指標をしっかりと示していく。

Q：現在の指標は何か

A：第6次総合計画の下に進めている。

Q：合併してよかったといえるように進めていって欲しい

Q：国、県からの補助は、トータルで増えるのか減るのか。特別職の削減は、直ちに行うのか。

A：積極的に補助金を獲得していきたい。新市の議員数は34人以内である。

Q：物事を進める中、全体像を作り、進めて欲しい。市職員、人数を減らすのみではなく、長年行政で得た知識を活用できるようにするべき。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月12日（土） 19:00～20:15
会場	西尾市立室場小学校 体育館
来場者数	150人
質 疑 応 答 の 要 旨	
Q	合併に向けての課題として電算システム、退職金手当、消防団組織の説明があったが、どのくらいの予算が必要か。説明資料に今後の見込み額の計算は入っているのか。
A	電算システムについては1市3町の課長会議で検討を進めており、約11億円が必要と試算しているが、3町からも負担金をいただく。退職金手当では3町が組合を脱退していく方針であるが、消防団の件も含めて今後の合併協議会で検討していく。資料の見込み額の計算には計上していない。
Q	電算システムについては11億円だけでなく、議会の説明では今後もっと必要になると聞いているが。こんな説明でよいのか。
A	電算システムについては、どのような手法が良いか現在調整中である。
Q	合併協議会に市民を入れていくと説明されたが、公募をするのか。合併に際し、もっと詳細なメリット、デメリットを示すべきでないか。住民投票が必要ではないか。合併したら後戻りはできない。 住民の幸せを第一に、福祉や社会保障が停滞しないよう考えて欲しい。 3町は年間で20億円の交付金を受けている。今後西尾市は大きな借金を抱えることになる。合併協議会でどのように借金を返済するか示して欲しい。
A	住民の幸せを第一に考えて生きたい。合併協議会のメンバーの公募は考えていない、地域の中から諸事業に詳しい数名を選出して生きたい。 合併協議会で、新市基本計画を作成していく。財政面など詳細についてはこの中で検討し、示していきたい。住民説明会の開催もしていく。
Q	新市の名称は西尾市か、他を考えるのか。
A	基本的には西尾市とすることで協議していきたい。
Q	合併の目的で市長は住民の幸せといわれたが、合併しなくとも1市3町の協力で進めていけるのではないか。デメリットを見ると住民の幸せを考えているとは思えないが。なぜ今合併が必要なのか。1市3町が独自に行政改革を進めれば良いのではないか。
A	1市3町の協力で進められる事業もあると思うが、今後の高齢化に向け合併による人件費の削減等を図り高齢化社会を乗り越えていきたい。

Q：人件費を減らし老人福祉に使うというのは政治家として考えることではない。職員の削減は住民サービスの低下につながる。職員、議員の削減をすれば市民の意見が伝わらなくなる。

A：単に職員の削減ではなく、合併により適正な人員計画を作成し、重複する部所等のダブリが予想される職員数の削減をしていく。

Q：説明された内容は絵に書いた餅である。住民投票は必ずやってほしい。

A：説明会終了した後に住民意向アンケート調査を実施する。アンケート調査は18歳以上の方から約5%を対象とし、単に合併賛成・反対でなく、その理由や意見を記していただく内容で進めていく。賛否のみを聞く住民投票は考えていない。

Q：電算システムの統合については、すり合わせをしていけば変更等は必要ないのではないか。何が電算システムの課題なのか。

A：現在電算システム等について3町と協議を進め分析中である。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月13日（日） 10:00～11:30
会場	西尾市役所 51会議室
来場者数	150人
質 疑 応 答 の 要 旨	
Q：私は一色町の住民であるが、合併すると住民税はあがるのか。	A：市民税、住民税は地方税という法律で定められており、変わらない。
Q：住民投票は実施するのか。先に合併をした市で失敗した例はどうか。地方債は各市・町どの程度であるか。返済はどのようにしていくのか。	A：住民説明会を1市3町合同にて19会場で実施しており、皆様の意見を伺っている。説明会終了後に住民アンケート調査を実施していく。アンケート調査ではどのような街づくりを望まれるか、反対の方はどのような意見かなど、多角的に分析していきたい。賛否のみを問う住民投票は実施しない。県内の合併事例については視察をし研究を進めている。 地方債については西尾市で224億円、3町で140億円であり、合併協議会立ち上げ後、新市の基本計画を策定する中で返済方法も検討していく。
Q：現在3町は地方交付税を受けているが、合併すると交付税はなくなる。これで1市3町は良くなるのか。退職組合からの脱退で10億円、電算システムの統一で11億円必要である。なぜ説明しないのか。	A：合併すると最初の5年間は満額、その後の5年間は半額の交付が受けられる。3町は退職手当組合に加入しており、脱退時には5億円の返済が必要であるが、西尾市が払うべきものでないと考える。電算システムについては現在研究中であり、システムの統合に11億円が必要と試算されるが1市3町の負担と考えている。
Q：合併のデメリットについてもっと詳細な説明がほしい。体が不自由であり、ごみ収集一つとっても不安が残る。高齢者対策についてもサービス内容の充実が図ってもらえるのか。	A：現在1市3町には事務事業として2,200～2,400あり、事務事業のすり合わせを実施している。今後1市3町の担当者レベルで事務事業の検討を進めていく。
Q：住民意向アンケート調査は全員を対象に実施するのか。	A：1市3町で18歳以上の方5%にあたる7,000人を対象として実施していく。統計学ではサンプル結果が1,000人以上あれば95%以上の意向が判断でき

るとされている。

Q：住民アンケート結果で反対が多いときは合併はやめるのか。

A：少子高齢化に備え合併は必要と考える。反対者の多い地区には説明に伺いたい。

Q：なぜ今この時期に合併なのか。少子高齢化が進むというが、借金はどのように返済していくのか。

A：364億円の地方債の返済については、合併することによる職員・特別職の削減等によるスケールメリットを活用していきたい。この地域の合併については遅いと考えている。

Q：地方交付税については平成21年3月までに合併をした場合の特例ときいているが。

A：合併新法は何度も延伸されている。今後の国の動向を見ていきたい。

Q：給料の基準はどこにもっていくのか。議員の削減はどのようになるのか。

一色町には佐久島がある。今は一色町からしかいけないが、吉良町からも船が出るようにしたらどうか。

A：給料について先進地の事例では、現在の給料に合わせる事例が多い。西尾幡豆のグランドデザインを考える中で1市3町の活性化を考えていきたい。特別職38人のうち議員34名については、1市3町の中から34名を選んでいただくことになる。

Q：今の時期、合併を急がなくても、政府の施策をみた後の合併で良いのではないか。

A：仕事は先延ばしするのではなく、その場で一つひとつ対処していくことが大切と考える。

Q：市長が合併により、有能な職員を集めたいと言われたが、説明では合併により職員を削減するとあったが、相違していないか。

A：合併してすぐ職員を削減するのではなく、10年計画で適正な職員規模としていきたい。

Q：合併については積極的に説明して行ってほしい。合併に対する機運を高めていくことが大切と思う。18歳未満の子供たちにも今後何らかの説明をしてもらいたい。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月13日（日） 19:00～20:30
会場	西尾市立平坂小学校 体育館
来場者数	180人
質疑応答の要旨	
Q	平坂中学校区は約7,000世帯あるが、今回の説明会出席者は町内役員等しか出席していない。今後は、開催について十分な周知をお願いしたい。合併には賛成であるが、急がずに住民に理解を得た後に進めて欲しい。前の市長の時に碧南市、蒲郡市、幸田町を含めた3市4町の構想があったがどうなっているか。
A	合併には相手方の合意が必要であり、幸田町は合併の意向はないと伺っている。碧南市、蒲郡市からも話は受けていない。西尾・幡豆は一心同体と考える。幡豆郡の力が衰えれば西尾も衰退する。1市3町で進めたい。
Q	前市長の時、相手側の市・町には問いかけがしてある。一度意向確認をし、区切りをしておく必要があるのではないか。職員の削減の説明があったが、早急な職員の首切りは難しいと思われる。都市施設管理協会を解体し、各施設に職員をあてたらどうか。
A	前市長の三河湾構想については、相手方の市・町と話をしていく。都市施設管理協会の件は、今後1市3町の話し合いの中で検討していく。
Q	合併すると西尾市の市民が重いものを背負うことになる。もっと時間をかけて、市民にしっかり説明をして欲しい。市長の任期内で考えていただいたらどうか。以前の合併ではこの地区は良い合併とは思えなかった。
A	合併は急ぎすぎとは思っていない。計画をたて計画どおりに進めていくことが大切と思う。先延ばしをしてもメリットは出てこないと思う。合併については一日も早い対応が必要と考える。ご理解をいただきたい。
Q	自民党から民主党へ政権交代がされる。合併についてはどのような施策になっていくのか。人件費について、給料は下がるのか、職員の削減はどうなるのか。
A	民主党の基本的な考えでは地方分権を進めると示されており、今より後退するとは考えられないが、今後確認をしていきたい。職員については、重複する部所等ダブリが予想される職員数の削減をしていきたい。
Q	西尾市におけるメリット、デメリットの説明をして欲しい。国民健康保険

料、介護保険料など個々なものについて、上がるのか、下がるのか示して欲しい。

A：事務事業については現在すり合わせ作業を進めており、今後1市3町で協議をしていく。

Q：新市の名称について基本的には西尾市とすると説明があったが、マスメディアでは、吉良町は吉良市を要望しているとあったがどうか。

A：合併について新市の名称は大きな問題であるが、西尾市とすることを原則に協議していきたい。

Q：ランドデザインのなかでより良い構想を作成して欲しい。この地区は、以前の合併からあまり変わっていない。合併をして良かったなどいえるよう進めて欲しい。

A：この地域は海、山、川もある。農業、漁業、商業、工業や観光もあり、すばらしい地域と思っている。海は大きな資源であり有効な活用をしていきたい。我々の住んでいるところは、我々の力で日本一にしていきたい。住民の方のお力が大切であり、お力をお貸しいただくようお願いしたい。

Q：3町の住民は吸収合併で、本当に理解しているのか。なぜ、この合併の話が出てきたのか経過を教えてください。合併は理想的な行政改革というが、1市3町のこの規模で理想的なのか、もっと大きな区域の合併は考えられないのか。

A：生活圏において農協、青年会議所、医師会、連合など、ほとんどの団体が1市3町の広域であり、各団体からも一日も早い合併を進めて欲しいと陳情されている。他の市・町を含む合併は長期となってしまう。1市3町で進めたい。経過については、合併特例法の期限までにとということで、早期合併の話が出てきた。

Q：西尾市と3町では財政の体力に違いがあり、合併すると西尾市の負担が大きくなるのではと心配である。そんな中で、情報開示が大切と思う。今後調整が進む中、ホームページなどで内容を示して欲しい。

A：今後合併協議会設立後は、議会に報告するとともにホームページにも掲載していく。また、住民説明会も開催していく。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月3日（木） 19:00～20:35
会場	一色町立一色西部小学校 体育館
来場者数	104人
質 疑 応 答 の 要 旨	
Q	町民税の額は変わるのか？
A	西尾市も一色町も町民税については、同じ税率ですので変わりません。しかし、前中村西尾市長が都市計画税を0.3%から0.28%に引き下げています。幡豆郡3町の税率は10数年前に標準税率である0.3%から0.2%に引き下げていますので、特段のことがない限り、幡豆郡3町は0.08%あがることになると思われます。これもこれから議論していく内容です。
Q	住民が理解したうえで合併協議を進めるべきと考えるがどうか？
A	合併を決定するのは最終的には議会の議決が必要です。当然住民の方にも、説明をし、アンケート調査を実施のうえ検討していくこととなります。
Q	住民投票をするつもりがあるのか、説明会で終わらせるつもりか？
A	「はい」か「いいえ」と決めるのが住民投票であり、そうではなくて、いろんな意見を聴くことのできる住民意向調査を行う予定です。1市3町で18歳以上の方を7000人抽出しますから、一色町では約1000の方に調査を行う予定です。
Q	期限内に合併ができるものなのか？
A	合併特例法期限内は電算の関係で1年間延長することとなりました。期限内は無理であるが、期限内の利点は交付税特例措置であります。昭和28年から30年に西尾市が合併により誕生したが、合併したとたん赤字団体となってしまった。こういったことが無いように合併による障害を除去する措置として、交付税特例措置が設けられています。交付税特例措置については、障害を除去する措置ですので、引き続き認めてもらえと思っています。
Q	民主党政権により変化が起きる。合併協議会の設立時期はいつ頃を考えているか？
A	平成23年3月までに合併をしたいと首長、議長では確認している。合併協議会が設置されたら電算システム発注ができる。全体で1年かかるということなので、なるべく早く設置したいと思う。いずれにしても、説明会、アンケートの結果を踏まえてそれぞれの市町が判断することになります。

Q 以前の協議では編入か対等かで議論が分かれたが、どうして編入の判断をしたのか？

A 合併の方式は大変重要な項目である。一番大切なのは、編入か対等かという方式ではなく、住民の皆さんが豊かに暮らせるかであり、この地域が将来発展するためには合併は必要だと考えました。大きな枠で考えれば、広域的な道路が整備されたり、名鉄蒲郡線の存続の問題など結果的にはプラスになると考えています。

Q 吉良町は説明会の中で、あまり賛成はしていないが周りが進めるから仕方なく進めていくといった感じがある。情報は早く流してほしい。町名字名を決める段階で、住民まで聞いていただけなのか？

A 広報の一画で10月号から特集を掲載していきます。統一的なホームページを作るようにしていこうと思います。町名字名についてはいろいろな方法があるので、今後決めていきたいと思います。

Q 町議が総論賛成各論反対という意見がだいぶあるそうですが、議会は大丈夫か？

A 議会は今のところ意見集約ができていないので、白紙の状態です。これから10日までの説明会を終えた時点で、皆さんの個々の意見をお聞きしたいと思っていますのでご理解をお願いします。

Q 議会が白紙の状態では先に進んでいかないがどうするのか？

A 去年6月に議会の意見を聴いているが、そのときは2人が慎重、それ以外は賛成だと言っていた。今後行われるアンケート調査で皆さんの意向が出てくると思いますから、住民説明会の内容や合併協議の進捗状況などの情報を発信していくことが大事だと思っています。その点を今後よく工夫していきたいと思っています。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月7日（月） 19:00～20:45
会場	一色町立一色東部小学校 体育館
来場者数	185人
質疑応答の要旨	
Q	支所になること、住民票窓口をやることへの不安。経費が嵩むのではないか。5年で150億円の補助金があり、物件費や人件費が浮いてくるとのことだが、地区の役員がボランティアでいるんなことをしてくれている。人件費が浮いてくると言うが、言ってみれば地区への丸投げと取れる。手厚い支援が必要ではないか。
A	合併特例法の交付税措置は、一市三町で20億円、5年で約100億円、次の5年で半分の50億円、計150億円です。資料10ページに示したような行政効果は出ると見込んでいます。区長や班長さんがボランティアでやっていただいている。大字、町のパイプ役であり報酬は少ないと感じています。町の職員も24時間体制で働いてくれている。地域の役場職員としてがんばって働いていただいている。合併したら、企画、中央部門を効率的に人員配置することになると思う。
Q	災害対策について（津波の高さはどのくらいを想定しているか。）海岸堤防はどの程度整備されているか。単町でも財源を手当てし早期に整備しないか。避難場所は本当に安全か。可能であれば特例を設けて（選挙区を設け4年くらい或いはそれ以上）町の議員を確保してほしい。住民の権利に当たるものは早めに情報発信してほしい。（納税猶予はどうか）地方分権とはいうものの、宮崎と大阪では財政力が違うのであまり参考にならない。常に活性化する努力が必要だ。渡船場に駐車場がないが対応は。佐久島に風力発電や太陽光発電のエコエネルギーの島として観光地にするといった考えは。
A	津波の高さは想定されていない。護岸は9kmの内4.4km48.8%が完了している。国庫事業であるため、町費の投入ではなく推進に向け、国に要望していきます。避難場所は各小学校区を考えているが、災害の程度により安全かどうかは変わってきます。西尾市の自治法上の議員の定数は34であり、条例定数は24であるが、新市の議員定数はこれから議論することになります。地元議員を応援し、その声を新市の市政に反映させるきっかけとしたいと思っています。議論がまとまっていけば、住民へは情報は早めに発信するように心がけます。地方分権により、介護や福祉などの国が本来やらなければいけない事務が、地方へ降りてきている。また、自前の財源も使わなければならない。大きな市になれば、各市町で行っている事務がひとつになり、無駄がなくなります。渡船場は来年の4月頃に

はさかな広場へ移転します。駐車場は昨年の暮れごろより前に整備してあります。

Q 10年か20年先には効果が出ることを期待している。一部になぜ合併しなければいけないのかという反対の意見や吉良の名前を残してほしいという意見があった。庁舎を直したばかりで新市が庁舎管理をするのに理解が得られるか心配だ。今後議論が深まったら、もう一度説明の機会を設けてほしい。

A 町名や字名の取扱いをどうするかは皆さんの意見を聴いて決めたいと思っています。西尾市は町名を残しているところとないところがあります。庁舎は、壊すわけにはいかないので、支所機能をどの程度残していくのかを先進事例を参考に、今後検討していきます。ボランティアなどの活動の場が求められており、現在公民館に集中しているものを、少し分散させた形で活動ができればと思う。皆さんからいいアイデアがあれば、お寄せいただきたいと思います。

Q 3つの禍根を繰り返さないようにしてほしい。名鉄西尾線が一色に来るのが廃止となったこと。中部国際空港が漁業関係者の反対により中止となったこと。4年前に合併協議が発展的解散となったこと。

A 次世代に住みやすい町を作ることが行政や政治の役割と受け止めている。

Q 日常的な買い物は吉良町へ電化製品は西尾市へ買い物に行っている。町にお金を落としていない。税金が手元に残る様なまちづくりを進めてほしい。若い人や奥さんたちの姿がない。こういった人たちに理解をしてもらえような住民説明会の機会をもっていただきたい。

A 合併の理由は生活圏が一体化していることだと考えています。車・携帯など情報通信機器の発達により、自治体間の距離を感じなくなっている。お集まりの皆さんから若い人たちによくお話いただければありがたい。合併のおおよそが固まった状況で、また一市三町で調整しながら説明会を開催したいと考えています。

Q 住民は流れのままいかざるを得ない。少子高齢化により子供が減るが学区の取扱いはどうなるか。生活圏は吉良か西尾である。一色の庁舎は合併したらエコハウスにしたらどうか。くるりんバスの道路網を整備してほしい。

A ・学区は基本的に変わらない。これから教育委員会を統合する中で検討していきます。エコハウスは面白い提案。これから大いに議論していきたい。
・くるりんバスが一色まで来るとフレンドバス、名鉄バス西尾一色線はいらぬのか？という議論になってしまう。いずれにしても、老人の足を考えなければいけない。新しい状況や枠組みの中でこういったことが可能か、これから考えていくことが重要だと思います。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月8日（火） 19:00～20:20
会場	一色町佐久島開発総合センター 2階 集会室
来場者数	28人
質 疑 応 答 の 要 旨	
Q	政権が民主党に変わったが、合併に対する予算への影響はあるか。
A	はっきり言ってわからない。今の合併特例法は自民党と総務省で作られたものだからです。民主党は地方の自主性を尊重している。政策の中で自治体の数を700～800にしていると言っている、これによればもっと合併は必要になると思います。合併して役場や支所が遠くなった、周辺部はさびれた、貰えるお金が貰えなかったなどという不満の声も寄せられているのも事実だと思います。この機運を逃さないよう一市三町の合併を全力で進めていきたいと思っています。
Q	離島には、学校、医療、消防など課題が多い。合併当初は住民の声が届きにくいと聞く。特例を使って幡豆郡三町で議員を増やしてもらえないか。
A	議員数は今後協議していきます。島では人口減少の中において住民の声が届きにくいという認識はあります。各市町（特に佐久島）では、それぞれ伝統、文化、コミュニティがあり、今後も各地域の住民が暮らしやすい地域づくりが必要だと思います。一体化した活動や確立性を持ちながら、全体の中へ溶け込んでいく地域自治区を是非やっていきたいと思っています。
Q	本土側の渡船場位置が変わるが、新渡船場のオープンに合せバスは即対応してもらえるのか。
A	名鉄東部バスと協議していきます。船の発着時間と合わせ3～4便の接続を考えています。新渡船場は5月の連休までにオープンします。
Q	西尾市には消防団がない。西尾市の例に統一すると消防団はなくなってしまうのか。
A	西尾市は全国で唯一消防団がない。三町の消防団は残すようお願いしていく。西尾市に条例がなければつくってもらうようお願いしていきます。
Q	合併には反対だ。小さな地域は切り捨てになるのではないか。渡船が民営化されれば、負担が増えるのでは。離島振興法は継続するのか。
A	合併協議の中で、このような不安が無いよう協議していきたいと思っています。新市は17万人規模になるため、それら多くの人たちの力で佐久島を応援してもらえる広がり期待したい。また、島民も島外からの人の受入体制に係る配慮も必要だと思います。クライנגルテンも離島振興法の中の計画です。新市の財政が豊かならば計画の対象から外れることも考え

られる。

Q 人口減少対策は何か

A 活性化そのものが対策だと考えています。人口増加には若い人の雇用の場所が大切になり、観光振興に活路を見出すしかない。島には資源が多くあり、島民とともに知恵を出し合っていきたいと思います。

Q 西尾市に観光課はあるか。文字として残して忘れられないようにしてもらいたい。

A 観光事業を取り扱っている課はあります。佐久島振興室とも議論し、職員とも思いは一つである。少しずつ良い評判を積み重ねていくことが大切だと考えています。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月9日（水） 19:00～20:32
会場	一色町立一色南部小学校 体育館
来場者数	105人
質 疑 応 答 の 要 旨	
Q	<p>メリットを聞き賛成したいと思う。現在作成されている計画が、合併により新市の計画に一色町民の声として反映されるのか。西尾市のほうが議員が多く、一色町の意見が聴いてもらえないのではないかと。一色町民の暮らしをよくする事業がしっかりと行われるのか。職員の体制は。新市における職権限・発言力は。企画的なものは組織として存在するのか。最低限今までの暮らしは確保されるのか。新市になった場合の一色町の行政の扱いは。</p>
A	<p>心配することはない。合併があった場合と、なかった場合を想定して計画を作っています。長期ビジョン、都市マス、環境基本計画などを実行していく。情報公開や周知に努めています。合併することになったら新市基本計画に反映していくこととなります。（合併を協議する際）一色町が主張できることを先手を打ってやってきたつもりです。住民の皆さんがこれらの計画を忘れず、地元から新市の議員となる人が全体計画の中で主張していくことが大切だと考えています。職員には相手を説得できるように議論の中から訓練してきました。公務員は公正、公平、中立でなければならない。一番重要なのは、住民の皆さんがこれらに関心を持つことだと思います。</p>
Q	<p>一色町のうなぎは一色産ブランドとして売れているが、今後このブランドはどうなるのか。町名や字名の取扱いはどうなるのか。住居表示はこれから地域性を尊重し、協議していきます。幡豆郡の代わりに西尾市にする方法や、大字を町名にするなど方法は多くあります。えびせんべいもうなぎも現在町外の業者が組合に入っていたりしているが、一色産ブランドとして売り出している。一色うなぎはなくならないと考えています。</p>
Q	<p>合併の基本は行財政の改革だと思う。人件費、物件費が安くなればよいと思う。合併特例法による交付金はどのくらいもらえるのか。職員が減る、議員が減るといっても資質がよければ心配はない。地方税はどのくらい助かるのか。</p>
A	<p>人件費は安城市を目標にしている。これを目標にすれば250人ぐらいの削減はできると考えています。大量退職があるこの時期に合併しないとメリットが出にくい。（人件費や物件費で）浮いた分を公共投資や行政サービスに充てていける。地方税は標準税率で課税されている。ギャップを埋めていく作業をこれからしていく。合併特例法は平成22年3月で期限が切</p>

れる。150億あれば行政需要をまかなえると思って主張した。小泉改革により交付税が大幅に削減された。この不況下では西尾市も苦しい財政状況と思う。電算システムの統一で1年かかるといわれて1年延期した。合併期限後も国からの支援策を探りながら、前向きに進めていきたい。

Q 6年前に合併が盛り上がったがなぜ当時は進まなかったのか。何か原因があったのか。

A 前回の協議は合併の方式でつまずいた。基本4条件が決まれば合併はうまくいく。新市の名称は、例えば田原と渥美などのように名前に愛着があり、なかなか決まらない。編入、新設をめぐる攻防があったと思う。今回は編入でよいとはじめから言っている。主張すべきは主張するが、最後は条例の制定権をもっているまちに合せなければならないと思っている。

Q 合併までに町会議員の任期が切れると思う。議員は資質がよければ新市でも発言できるので、がんばってほしい。

A 平成23年3月までに合併期日を延期したが、統一地方選は4月である。議員の選挙はない。西尾市が自治法上は34人、行政努力で24人となっている。選挙区が割り当てられれば、3町からは数字の上では10人は入れる余地がある。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月10日（水） 19:00～20:35
会場	一色町立一色中部小学校 体育館
来場者数	201人
質 疑 応 答 の 要 旨	
Q	合併自体には賛成だが、説明等を拝聴するに最も大切な部分が落ちている。それは「自己決定の喪失」である。一色町民が西尾市民になることにより、独自の価値観がなくなり、一色町民が飲み込まれてしまうという現実を見るべきである。
A	価値観や文化性は一律に比較できるものではない。一色町には全国に発信できる価値あるものが多くあり、西尾市と比べるべきものでもなく、自己決定は本来各個人がするものであると思います。行政は、個人、家族、地域でできないものをやっている、もっと大きな枠でやるべきであり、各種交流の妨げになっている。編入であるので、一部に西尾市に飲み込まれる部分もあるが、伝統は必ず受け継がれ、かえって価値観が多様化し、西尾幡豆の真の豊かとなると思っている。
Q	新市の名称の件で、自分の町の名前が消えることは忍びない。提案として「三河市」にすれば、お互いにもめないのではないか。
A	今回は編入ということで原則西尾市で協議していきますが、ご提案の件については伝えていきたいと思っています。
Q	メリット、デメリットの件で、住民サービスは具体的にどのようになるか教えてほしい。
A	その対象となるべき人が、どのようなサービスに関心があるかによって変わってきます。いろいろなところを見れば、いろいろな違いが出てくると思います。
Q	資料8ページの統計数値や9ページの平成20年度決算で一色町の投資的経費の数値を見ると合併は仕方ないと考える。様々な件について判断材料として更なる情報公開が必要だ。
A	計画的に多く出すときと少なく出すときを調整していますので、統計数値については、単純に比較できない部分もあります。投資的経費は平成21年度に大型の建設事業（一色東部小学校南校舎改築等）があるため、平成20年度の事業費を相当絞り込んだことによる影響だと思えます。
Q	合併時に一色町民がうれしく思うような話はないか。地方税はどうか。教育委員会の説明がなかった。幡豆郡三町は一町一中学（一色町は2）で恵

まれている。合併すると10中学校となり、効率化・公平化が求められ、自主性・個性がなくなるのでは。

A 税制については、ごく一般的な説明になるのでご理解を願いたいと思います。教育委員会の統合により、大きな行政区域に入ると、個性が平均化・標準化することも考えられるが、各学校で特色ある活動をしており、今後もおこなわれると思っている。中学生海外派遣事業や文化芸術スポーツ体感事業は、今後どうなっていくのか心配です。地域の個性や文化をつなぐのは行政ではなく、人から人へ引き継がれ発信していくものだ。大きな枠の中で個性を出していくことこそ、本当の活性化・賑わいになると思います。

Q 各市町で中長期計画が策定されていると思うが、新市となった場合、まちづくりの計画は、各市町のつくったものを持ち寄るのか。新計画を策定するのか。

A 町長就任以来、長期ビジョン計画や第7次総合計画、都市計画マスタープランなど、30年50年後にこの地域はこうありたいという思いで、これら計画を策定した。新市の計画においても、これらの計画が埋め込まれるよう努力します。

Q 住所の表示はどうなるのか。

A 今後協議をしていくことだが、「一色」という名前はなくなる。旧町の名前を残すとか、大字を町名に格上げするとか、いろいろな方法がある。いいアイデアがあれば伺いたい。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月1日（火） 19:00～20:35
会場	吉良町立津平小学校 体育館
来場者数	120人
質疑応答の要旨	
Q	編入合併は、公共料金が一般的に上がると思うが協議の場で安い自治体にあわせることはできないか。
A	原則は西尾市に合わることになる。現在、事務事業のすり合わせ中ではあるが、負担の増もあれば減もある。全体的には大きく変わらないものと考えている。
Q	排ガス規制について
A	西尾市は規制対象区域となっているが幡豆郡3町は規制対象外となっている。愛知県大気環境課に確認したところ、合併により区域外の市町村が対象となることはない。また、区域改正の予定がない旨の回答をいただいている。
Q	幡豆郡3町の合併は話し合われなかったか
A	平成15年に任意協議会が解散し、平成16年に議員間で協議されたが広域的な合併を目指すなどの意見によりまとまらなかった。
Q	新市名に「吉良市」を提案する考えは
A	人それぞれに愛着はある。協議はしていくが期待はしないほしい。
Q	電車からバス路線への考えは
A	行政、議会内で協議しているが、車社会の中でどこまで需要があるかが問題である。費用対効果を考えると実施できない。補助金の有効活用、制度改革など状況が変れば検討していきたい。
Q	資料が漠然としたものでわからない。例えば、「今なぜ合併か」、「メリット・デメリット」が抽象的である。これでは「将来のために、しょうがないがついてこい」と聞こえる。
A	なぜ合併するかは冒頭のあいさつのなかで説明した。決して「しょうがないからついてこい」ということでなく、「住民の幸せ」のために行うものであるが、我慢をしていただくこともある。
Q	住民投票の実施について
A	当初、議会において住民投票をやると言ったが、3町同じでなければならない。住民投票は単に賛否を問うものである。今後実施する住民意向調査

(5%のサンプル調査により合併に対する思い、将来像、不安に思う点を把握)を実施し民意を反映していきたい。

Q 地元議員が出席しているが合併への考えは

A 皆さんの意見を伺った後に述べさせていただく。

Q 個人の生活に直接関係するような説明が欲しい。

A 現在、事務事業のすり合わせ作業中である。事務事業すり合わせ結果、新市基本計画など話しができる段階で説明会を予定している。教育関係は基本的には変わらない。しかし、西尾市は2学期制をとっており、3町は3学期制であり、そういったことを協議していく。

意見 すり合わせに十分な時間を取り、協議していただきたい。

Q 意向調査について、いきなり送りつけられても分からない。何か資料をつけては。

A いきなり実施はしない。こういった機会を経て実施する。また、本日の説明会を地元でこういった内容であった旨の話しをしていただきたい。

Q その他項目の「協議」、「調整」はいつやるのか。合併後もやっていくのか。

A 合併調印までには提示する。

Q 吉良町として「譲れない」項目は。

A 沢山ある。しかし全てを言っても聞いてもらえない。実は、6年後に庁舎建設を予定している。これは何としても実施したい項目であったが、合併により支所となるので現在想定している規模は必要なく、現在、議会、庁舎建設PTで検討している。各部課にはこれだけは残して欲しい事業をまとめるよう打診中であるが、現時点ではまとまっていない。

Q 吉良町が「合併反対」と言えば「1市2町」でやるか。

A そういったこと(吉良町が合併反対)は考えていない。

Q 「吉良」の名前の存続は

A がんばるが期待しないでほしい。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月5日（土） 19:00～20:35
会場	吉良町農村環境改善センター
来場者数	230人
質 疑 応 答 の 要 旨	
Q	法律のタイムリミットがあり、間に合えば100億円もらえるという話を聞いている。電算のために先に伸びてこれからどうなるのか。
A	今、年間で交付税は3町で大雑把に年間で20億円をもらっている。その分が5年間補填されるという特例措置である。期限は切れるが、過去の合併についても同様の措置があるので大丈夫と思われる。
Q	いきなり合併の話が出てきた。青天の霹靂のようである。
A	平成20年から話し合っており、突然始まったものではない。
Q	民主党政権になったことで合併問題はどうか。
A	小沢さん（民主党幹事長）は市町村を700（現在は1,753）ぐらいにしたいと話している。まだ地方分権の流れは進むと思われる。市町村が減り財政が健全な団体が増えれば国の行革にも繋がる。
Q	編入とはいかがなものか。
A	以前は新設でこだわっていて失敗している。
Q	住民意向調査を全住民対象に行ってもらいたい。
A	1市3町で行うので、住民投票や多くの皆さんに対する意向調査は行わない。
Q	合併についてのデメリットで中心以外は寂れていくのではないかと。また、人が退職していくから人員整理等ができるのであって、新しい人を入れたいのではないかと。
A	人は（雇い）入れないわけではない。ただ、今まで10人採用していたものが6・7人になるかと思う。長いスパンで考え、急激に減らすわけではない。
Q	排ガス規制について
A	西尾市は規制対象区域となっているが幡豆郡3町は規制対象外となっている。愛知県大気環境課に確認したところ、合併により区域外の市町村が対象となることはない。また、区域改正の予定がない旨の回答をいただいている。

- Q 資料中の公共的団体の中に文化協会が入っていない。どうなるのか
A 原則的には団体を統一していくことになる。
- Q 合併の日程はどうなる。
A スケジュールについては協議中であり、今後の1市3町の懇談会で決定していく。合併は23年1月か3月、法定協議会設立は12月か4月になると思う。
- Q 住民の総意をとらないままでいいのか。出口調査（アンケート）でいいのか。
A 住民意向アンケート調査で把握していく。人数については確率論では問題はない。
- Q 合併したときにどれくらい生活に影響してくるのか。具体的に示してほしい。
A 今、事務事業のすり合わせを行っているので具体的に示すことはできない。決まったら広報等でお知らせをしていく。
- Q 合併したときに夢というか計画はどうなっているのか。
A これから新市基本計画を作り、その後、住民説明会を行う。
- Q 事務事業で（影響が）わかった後で可否について住民判断ができるのか。
A 法定協議会の設置、新市の基本計画のできた後の住民説明会、合併の議会議決をふんでいくことになる。ご意見を聞く機会は十分にあると考える。
- Q 西尾市は「吉良市」にならないのか。
A 「吉良市」というお話はありがたい。黙っていることはないが期待はしないでほしい。
- Q 新市になってからの選挙はどうなるのか。
A 編入合併の場合、行われぬ。ただし、特例措置があり様々な方法がある
- Q 吉良町の議員はどうなる。
A 原則失職することになるが、（現行特例法では）特例措置がある。ただ法の期限が切れ、新たな法は現時点ではまだ決まっていない。
- Q 町長は合併ということで腹は決まっているのか。
A 私はすべしと思う。
- Q 平成の大合併の先進事例でデメリットなどの情報収集は行っているのか。
A デメリットは大方資料に示したものになっている。こういったものが出ないようしていきたいと思う。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月7日（月） 19:00～20:40
会場	吉良町立白浜小学校 体育館
来場者数	150人
質 疑 応 答 の 要 旨	
Q	協議する、ということであるが、何か市町の業務を比較するための雛形のようなものはあるのか。あればそういったものを示してほしい。
A	協議するという表現であるが、これから検討に入っていくのでこのような表現になっている。先進事例である豊田加茂などを参考に行っていく。
Q	西尾幡豆の新たな圏域形成の基本目標、例えば名浜道路のような将来像としての雛形はあるのか。
A	そのような雛形はないが、名浜道路のようなものは国が必要と思えば作るのではないかと思う。
Q	合併協議の経過で、過去に新設か編入かで揉めた事があったのに何故今編入であるのか。
A	過去、3町は新設でなければ駄目で、西尾市は編入でくるようにということであったため破綻をした。今回は2町が編入でもいいということになったので、吉良町も足並みを揃えてそうした。
Q	人・モノなど今後10年間の削減について、何か根拠があれば教えていただきたい。
A	今回の人の削減についてのデータは、合併した後の人口規模が似ている安城市を参考にした。
Q	安城市を基にデータを作成したのはわかったが、リストラはその当人にとって大変なことである。
A	特別職は失職するが、一般職は身分を失わない。
Q	基本4項目の確認事項ということであるが、確認ではなく決定なのではないか。こんな大事な事項を8人で決めていいのか。
A	大事な事を8人で決めたわけではない。説明会を行うためにも方向性を決めただけである。
Q	交付金は持参金だということだが、100億円は西尾市内であればどこでも使えてしまうので、西尾市側の開発で使われてしまうのではないか。編入である3町側は文句も言えないのではないか。
A	100億円を西尾だけで使ってしまうなんてことは許されるものではない

い。これは広域的に考えて使っていくことだから、そのようなことはないと思う。

Q 議長さんへ質問する。編入で良いのか。急になんで編入でいいということになったのか。

A 1市2町の思いが早急にということであり、吉良町は慎重にことを進めていたが、周りから取り残されるわけにはいかないので、方向として同じ輪の中に入ろうと決めた。

Q 合併の流れに乗ることはいいかなと思う。平成の大合併の際の特例法の交付金は時限立法で終わってしまう。今後、合併するとして交付金はどうなるのか。

A 現行の特例法は期限が切れ、はっきりはしてないが、今後も5年間の算定替えは残るのではないか。過去の合併についても同様の算定替えの措置がある。民主党になっても残ると思っている。

Q 交付金を西尾市はもらっているのか。

A 西尾市は不交付団体でもらっていない。現在の水準で行けば合併しても不交付団体となる。

意見 小さくても上手くやれる方法があるのではないか。結論は急ぐべきではないと考える。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月8日（火） 19:00～20:55
会場	吉良町立吉田小学校 体育館
来場者数	150人
質 疑 応 答 の 要 旨	
Q	西尾市に編入ということであるが、吉良の名を残してほしい。
A	西尾市の下に吉良の名を残したいと考えている。協議の中でも強く言っていこうと考えている。
Q	市町村行政の取り巻く状況から考えると合併はしょうがないと考える。合併は規模の拡大や効率化にあると思うので、職員の削減を10年かけてではなく5年くらいで行うことは可能であるのか。
A	特別職については人員の削減は可能であるが、一般職の3町の職員は編入しても身分が保証されているので肩たたきはできない。また、新しい職員も採用していかないと今後のバランスが崩れるので時間がかかる。
Q	交通網の開発・発展は必須かと思う。その中で名鉄西尾蒲郡線の存続ができなくなったら吉良町は過疎化してしまうので、存続させるようにしてほしい。
A	本日も名鉄のチラシを配らせていただいた。国・県・関係市町などと存続のために協議している。西尾蒲郡線は利用者が減っている。西尾・吉良吉田間もこれ以上減ると存続は難しくなる。
Q	合併によるメリット、デメリットをはっきりさせ情報公開をしてほしい。広く町民の意見が反映させるようにしてもらいたい。
A	今、合併協議を進めていく前段階であるので、今後、そこで決まったものや新市基本計画を後日お示しするつもりである。また、住民説明会も開催する。
Q	合併後の新市のイメージを教えてください。
A	今後、西尾幡豆グランドデザインを創る有識者会議の設置を予定している。例を挙げれば、1市3町の地域資源を結びつけた魅力ある観光施策が行われるようになると思う。
Q	合併をした他地域の合併のメリットを教えてください。
A	合併してもすぐに結果が出るものではない。しかしながら、広域的な土地利用、工業開発などの計画ができるようになるので期待ができる。

- Q 西尾市になると税金等が上がるのか下がるのか。
A 税金面では多くの違いはないが都市計画税は増えることになる。
- Q 新市になった場合、愛知県内で人口等については何位か資料でわかったが、歳入は何位くらいになるか。
A 手持ち資料がないので、後でご回答させていただく。
説明会終了後、安城市と西尾幡豆の税収の説明したところ、それ以上の説明は要らないとのことでした。
- Q メリット・デメリットがはっきりしていない。3年後とか5年後にどうなるとかの構想を示してほしい。
A これから新市基本計画を作成していくので、今の段階では示せないが、出来たら示していく。
- Q 資料の中にある行政サービスの格差については心配している。その中で資料にもある窓口業務が長期的には増加していくとは考えられない。
A ここで言っている窓口サービスは、(今まで他の町では取れなかった証明がとれ、)場所が増えるということである。
- Q 編入について、さまざまな懇談会の中で(合併について)無理であるという結論であった。前回合併にいたらなかった点と今回合併協議が進んだ点について教えてもらいたい。
A 平成15年に合併協議を行ったが新設か編入で揉めてしまって破綻した。今回は、2町が編入での合併でもいいと望んだので吉良だけしないわけにはいかない。3町は一体でいかないといけない。ただ、主張すべきことはする。
- Q 吉良町にとってのメリット・デメリットを示してもらいたい。
A 吉良には歴史・文化・伝統がある。そういったものを残していきたい。また、尾崎士郎作文賞のような独自事業についても残していきたい。
A 資料のメリット・デメリットは、すべて吉良町に当てはまると思う。
- Q 編入は決まったのか。
A 方向性として決定した。
- Q 平成15年の小委員会で新設・編入議論で紛糾していて、当時西尾は議員・有識者・市長の意見は纏っていなかった。3町各町は一体となっていた。それでも破綻をしたのに、今回は編入でいいということになった。2町長と市長の意見でころころ変わる。あと合併特例法のお金はいくらくれるのか。
A 合併協議の中では主張する部分は言っていきたい。現行法の制度での特例措置はなくなるが、何らかの措置はあると思われる。

Q 特例法の金はひも付きの補助金なのか交付金なのか。

A 交付金だからひも付きではない。

Q 各市町の借金はいくらいあるのか。

A 吉良町の一般会計、特別会計を合わせて借金は101億円。ただ公債比率は6%である。健全財政である。一般会計での借金は、西尾市は224億、一色町は58億、吉良町は50億、幡豆町は32億、財政調整基金は、西尾市は49億、一色町は8億、吉良町は8億、幡豆町は8億ほどある。

Q 民主党が予算や補正予算を組み替えると言っているのに当てにしているのか。

A 民主党も合併推進だから残るとされる。

Q 積み立てている基金などを吉良町であるうちに使うつもりはあるのか。

A 基金は1市3町内で理解できる程度は残して、それ以外を精査して使う。特に庁舎建設基金があるので使いたいと思う。

Q 合併してもどこに住んでも人はいっしょである。平等であるのでサービスの向上をお願いする。合併期日は延ばせないのか、国の行政も変わり動向を見てからでもいいのではないか。

A 期限を延ばしては、このまま話が流れてしまう可能性がある。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月9日（水） 19:00～20:45
会場	吉良町立荻原小学校 体育館
来場者数	160人
質 疑 応 答 の 要 旨	
Q	合併については、今回がラストチャンスである。今回、合併に乗り遅れたら将来に禍根を残すので、4市町で足並みを揃えて合併はすべきである。次に住民投票はやるべきではない。合併が1対1で行うのではなく、4市町で行うのでやめてもらいたい。次に吉良町の名称にこだわらずに進めてもらいたい。次に合併で支所になるなら新庁舎を建設するよりも現施設の防災施設整備をしてもらい。そして、吉良町は3町の真ん中であるので防災の拠点としてグランドデザインの中に取り込んでもらいたい。最後に電算システムの移行をスムーズに行ってもらいたい。
Q	税金は少なくなるほうがありがたい。メリット・デメリットはあるようだがどうなる。
A	税金は西尾市の例によることになると思う。様々な税金でほとんどは変わらないが、都市計画税は上がることになると思う。
Q	新市の財政の資料を見ると財政的にやっていけないのではないか。合併しないほうがよいのでは、単独でやってほしい。
A	資料にある将来の数字は人件費などの削減を図った上で、投資的経費のお金が捻出できる。
Q	意向調査の内容をどのくらい尊重するのか。
A	1市3町で行っていくもので5%の方に実施していく。そこでの結果はどういうことが不安かなどの意見を汲むことができる。
Q	議会で合併は決まる。そこで否決されれば吉良町の合併はない。首長さんたちはまるで決定であるような発言である。決まっているのか。
A	1市2町での合併はないとしたい。
Q	吉良町が否決した場合、1市3町全体の協議が破綻し合併が全てなくなるのか。
A	現在は足並みを揃えて行っていくことにしている。仮に吉良が抜けた場合、合併を1市2町でやるかどうかは我々が言えることでない。
Q	9月1日号の合併に関する記事は発言が慎重だったのに方向性が変わった今の発言とどちらが本音なのか。

- A 合併は賛成である。先程の方が言ってくださったことはうなずきながら聞いていた。
- Q 町長は公約で住民が十分納得いく方向で合併する、住民投票ということも言っていたが、こんなに早くしかもアンケートということで、本当に住民に対して十分な説明することなくおこなうのはいかがなものか。
- A 期限が決まっているので意向調査はゆっくりはやっけていられない。その点は、ご理解してもらいたいと思う。
- A 今回の意向調査は法定協の立ち上げのための調査である。新市基本計画ができたなら住民説明会は再度行う。
- Q 私が調べたところ合併して国保税が上がったと聞いている。住民のためになっているのか。
- A 国保税は、個々の条件により変わるため、それぞれ計算をしてみないとわからない。ただ、平均的な家庭を想定したシュミレーションでは西尾市の方が安くなった。
- Q 都市計画区域内農地は100倍くらいのうちが上がるのでは。
- A 質問は生産緑地の関係でよろしいか。新市になっても市街化区域内農地は納税猶予の対象となる。このことは合併プロジェクトチームから税務署に確認済みである。
- Q 町職員にすれば死活問題では。大変な辛辣をなめるのでは。
- A 事例では、合併でやめる職員もいるが、法的には一般職は保障されている。
- Q 合併の時期は見直してはどうか。今回、1年延びた経緯も住民のことを考えず決まったのは、政治的な思惑で決めているのではないか。また、新設が編入に変わった理由はなぜか。
- A 平成15年のときはこの議論をして破綻した。今回の話は一色・幡豆ともに編入でいいといったから始まった。その中で吉良町は慎重に行こうと話した。また、22年3月末はとてもできないという意見も多かった。そして、1年合併が延びたことで何とかできるかもという状況になった。
- Q 議会も合併を推進しているのか。
- A 全員協議会で話したわけではないが個別に話したときは良い感触であった。議員の皆さんもいらっしゃるのでご意見を伺いたい。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月6日（日） 19:00～20:13
会場	幡豆町ふれあいセンター 大会議室
来場者数	230人
質 疑 応 答 の 要 旨	
Q	合併方式が基本的に編入ということであるが、事務事業のすり合わせがどの程度できるか。西尾市への統一が基本となるが、どの程度意見が言えるか。住民の不安が多い中、住民の立場に立った要望を通してもらえるか。
A	編入であっても各市町の特徴を反映させたものなければならない。全てが編入で丸呑みということではない。活かすべきものは活かしていくことを主張していく。地域住民が将来にわたって不安のない合併をすべく首長として「皆さんの声」を届けていく。あくまでも協議であることから合意が基であり、合意に向けて努力する。1市3町合意のもと進めていく。
Q	説明会資料P6内の「特例措置」については特例法あった場合と考えるが、その確認をする。
A	現法は22年3月までの時限法であり、それまでに新市がスタートした場合、特例措置を受けることができる。現在の法律に変わる法律等が施行されれば、それによるが、今の法律で終わりとなれば特例措置は受けられないことになる。
Q	メリット・デメリット多々あるが基本的に賛成である。農業は「水」「土地」「郷」であると考えている。土地改良がその基盤を形成しているが、その殆どが補助事業であり、本町800人の組合員という小規模な組織であるため、要望もするにしても広域的に考えていく必要がある。また、都市計画道路の決定がされているが単町で要望しても事業化してもらえない。1万人の町と17万人都市とは違う。広域的な観点から要望していけばやってけるのではないか。こういったことから是非、前向きに後に良かった思える合併を進めていただきたい。
A	土地改良事業についても広域的な整備に諸問題があり、1つの市となることによりいろんな角度から要望していける。都市計画道路については現道を中心としたものに見直し作業中である。詳細内容については順次説明させていただきます。
Q	ディーゼル規制について現在、西尾市は規制区域となっているが、合併した場合、旧幡豆郡はどうなるか。何か特例措置はあるのか。
A	合併されても幡豆郡地域は変わらない。個人には今の回答となるが、営業所だけに移すことが本当に環境面から良いものかどうか。非常に難しい問題である。

Q 前回は行われた説明会（H20 実施）の際にこのままの状態では生き残れない旨の説明があったが、今回も同様な状態であるのか。

A 財政力が落ちて行き、近隣市町との格差が生じることが問題であり、平成 20 年度の財政力指数が 0.68 で県下町村のワースト 5 に入っている。近隣市町と同じ財政力で共有できるものは共有していくことが合併と考える。

Q 説明を聞いて、上面はいいことを言っているが、中身はすごく悪く感じる。（ディーゼル規制を例にとり、悪いもの（事務所のみ）だけ持ってきて）なぜ合併か。町の負債はどうなるか。

A 町債についても新市に引き継がれる。ディーゼル規制については法によるもので合併事例からお答えさせていただいた。個人的には環境面で悪いものと思っている。

Q 前一色町長は合併に反対であった。西尾市、吉良町から見て一色町、幡豆町はお荷物と思われる。西尾、吉良は合併したくないと聞いたが、現在の財政能力でなぜ、今更、急に合併なのか。

A 平成 15 年に協議に入ったときは、「合併協議の入口」で頓挫した。その時も今の財政力指数に大きな変化はないが、国の基準によって大きく変化する。現在、1 市 3 町で多岐にわたり広域行政を行っており、また、歴史的、地理的にも 1 市 3 町は共通点が多い。合併は財政だけでなく幡豆にも大きな財産があり、合併によってそれぞれの役割を果たせる地域になれば大きな財産となる。そういった観点から今回の合併に望んでいる。

Q 合併の流れについて議会の議決を経て進めるとのことだが、調整・すり合わせ後に住民に報告する旨の説明であったが、「住民・議会の合意」をどの程度住民に説明していくのか。

A 合併については 1 市 3 町足並みを揃えて取り組んでいく。今後の協議事項等も足並みを揃えてやっていきたい。議会の合意については協議会の内容を報告すると共に協議をしていただく。また、グランドデザインの策定計画があり、多岐にわたる団体の皆様の参加のもと、策定することを考えている。人選については協議会で決めていく。協議内容・決定事項はなるべく住民の皆様へ発信することを考えている。

Q 新聞・テレビで「矢祭町」の報道があり、矢祭町長が職員の減給によって大きな成果をあげたことについてどう考えるか。

A 地理的な問題もある。他にも自町のままでやっていこうとする町もあるが、本町では近隣市町を考慮すると難しい。

意見 個人的には合併に賛成である。しかし、高齢化社会に対し、支所に老人関係機関を残しておいて欲しい。

A 資料では平成 17 年度で 22.5% であるが、現状では約 25% で 4 人に 1 人は高齢者という状況にある。2025 年には全国平均で 3 人に 1 人となる。高齢

者の方にも「やさしいまちづくり」のためにも合併が必要である。

意見 先月、西尾市商工会、幡豆郡三町の商工会長が連携し、各市町及び議会に陳情した。合併への活動は10年以上前から行っている。西尾市長が代わり、合併の実現に向け安堵している。しかし、過去の反対勢力により頓挫した経過もある。先のアンケート調査では住民の約7割の方が合併に賛成を得ており、今更メリット・デメリット、個人の損得で賛成・反対をいう時は既に過ぎている。商工会としても強力な合併の推進をして欲しい。スケールメリットを生かし、教育・介護・福祉に少子高齢化の時代に対処していただきたい。また、名鉄問題にしても、大きな町での対処して欲しい。

Q 9月4日の議会で3名の議員が合併について質問し、共通事項として「住民投票の実施」であり、「住民の意向をどれだけ反映させた合併」ということで、質問させていただいたが、今後の交付税措置見通し等の回答をいただいたが、とうてい納得できるものではなかった。こういった問題を残した上の合併は時期早々であり、これでは議員は何をやっているかということになる。町民の方には議会内でも協議していることのご了解をいただきたい。

A 町共産党の意見として受け承っておく、議会の方々は身を削る思いで取り組んでいただいております、決して共産党の方だけが言っているのではない。

住民説明会結果表（質疑応答を中心に）	
開催日時	平成21年9月13日（日） 19:00～20:15
会場	幡豆町ふれあいセンター 大会議室
来場者数	130人
質疑応答の要旨	
Q	もっと広域での合併の考えは。
A	合併協議は、現在の幡豆町が良ければそれで良いということではなく、どうしたら将来持続可能なまちづくりが出来るかが合併議論の一番大切なことである。当町の人口12,700人、高齢化率25%、今まさに少子高齢化の時代にまちづくりをしていくうえで生産人口の増加を促すことが重要である。将来、幸せに幡豆町で暮らしていくための議論を進める。いずれは、より広域での合併も必要な時代が到来するが、地方分権の時代に現在の職員数では対応できない。町では1人で複数の係りを兼務しているが、市では係りに専門職を配置することで、より良いサービスの提供をしていく。合併により職員の効率化を進める。
Q	広報紙や本日の説明を聞いて、各首長の思いに温度差を感じる。当初、合併期日を平成22年3月としていたが、合併期日が1年延びたことにより特例措置が受けられないこととなるが、西尾市長はそれでも合併を推進しているが、三町は同じ考えでいいのか。
A	方向は1市三町長共に同じ方向を向いている。問題は住民の意見を伺い、議会と調整をしたうえで進めることが原則である。首長だけ決めるのではなく、住民の代表である議会にも参画していただく。また、本年12月を目途に西尾幡豆の将来構想を描いた「グランドデザイン」を策定することとなるが、私案ではあるが、その形が見えた段階で説明の場を設けていきたい。また、福祉関係は心配している1つの要因であるが、今後、そのあり方について1市3町でしっかり検討していく。
意見	全国的に合併が進んでいるが、諸所の事情により頓挫したケースが見受けられるが、中止となることの無いよう、鋭意努力していただきたい。
Q	編入には止む無しと考えるが、新市の名称は全国的に知名度も低い「西尾市」でなく、例えば三河という知名度から「三河市」などは。
A	現在の西尾市も以前は幡豆郡であったように名称から歴史を創る。知名度はその時代の住民の頑張りにより高めるもので、西尾市になっても幡豆地区はいい所と言ってもらえるような地区となるように住民一人一人が頑張っていたきたい。
Q	名鉄の廃線により、周辺部がさびれるといったことが懸念されるが、合併

協議にあたり、名鉄の存続を前提にできないか。

- A 現在、2市2町でこの問題を協議しているが、小さな町の発言と大きな町の発言では違う。合併により大きな市で協議、要望していく。皆さんは存続させなければならないことは分かっているが、行動（利用）が伴っていない。年に数回は利用していただきたい。それが存続への第一歩と考える。
- Q 合併により、税の負担はどのようになるか。
- A 町県民税は地方税法の中の規定された税率を使用しているのと同じである。固定資産税についても評価方法に差はなく、基本的には同じ。ただし、都市計画税が西尾市（0.28%）と幡豆郡三町（0.20%）の税率が異なり、格差については今後の協議の対象となってくる。
- Q 幡豆郡三町はその多くを海岸に接しており、国・県事業より整備をしているが、合併後は多額の費用を要する海岸整備事業等はどうなるか。
- A 国・県事業については、今後、作成する「新市基本計画」の中で位置付けていくことになる。新市基本計画を作成していく上で、本町では町独自の計画を作成し、それを提案していくことを考えている。
- Q 地方自治への時代の流れの中、「福祉」、「介護」、「防災」等は小さな町ではやっていけない。スケールメリットを十分に生かして広域での対応をしていただきたい。
- Q 新市の名称については、各市町それぞれ思いはあると思うが、譲るべきとは譲って、何としても今回は合併を成しと遂げていただきたい。
- A 名称は思いが色々ある。本町も町制80年という歴史を有しているが、先ほども述べたが、例えば「住環境」では西尾市の中で1番の地域となっていてもらいたい。
- Q 新市の名称、住居表示については旧町名を入れないケースがあるが。
- A 住居表示の決め方には大字を町名としたり、現在の町名をそのまま残すなど様々な方法があり、例えば若者は住居表示が長いのは嫌がるといったことも考えられる。今後、協議会で協議していくこととなる。
- Q 防災、地域活動に住民意識が欠落する中、消防団の存続については、組織設置・役割の目的から基本的には賛成であるが、費用面については多くの予算を必要とする。「自分のことは自分で」、「やれることは自分で」という観点から消防団の存続についての考え方。
- A 全国で消防団組織が存在しなのは西尾市のみであるが、水防団組織がある。予算措置をしていただければ各市町のやり方で組織していけば良いと考えている。しかし、人材確保などの課題はあるが、OBは自主防災会として現在も活躍しており、存続させる方向で協議していく。